

平成二十四年度

国語(記述式)試験問題

(人文・社会科学専攻)

(注意) 一、各問題の設問の数に注意すること。

二、解答はすべて別紙解答用紙の定められた欄におさまるように記入せよ。なお、一行に相当する枠に、

二行以上にわたって記入しないこと。正しく記入していない場合には採点されないので注意すること。

三、解答文中の誤字(仮名づかいの誤りも含む)は、その程度に応じて減点する。

1

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

掲載
この部分に記載されている文章につきまして、著作権上の問題から
掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

掲載
この部分に記載されている文章につきまして、著作権上の問題から
掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

掲載することができませんで、ご了承ください。著作権上の問題から

掲載することができませんので、ご了承ください。著作権上の問題から

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

(武満 徹氏の「鏡と卵 a mirror and an egg」による)

* (注) 有つ——「持つ」と同義。

バックミンスター・フラー——アメリカの思想家、建築家。

妊つて——読みは「みこもつて」。「孕んで」「懐胎して」の意。

諸君——この文章は、エール大学で開催された、作曲家志望の学生に向けたセミナーでの講演を基にしたものである。

査証——ビザ。存在を証明するもの。

電気回路を信仰するロマン主義——電子的な表現テクノロジーに過度に依拠した音楽界の傾向のこと。

ガムラン——打楽器を多く用いるインドネシアの合奏音楽。儀式や演劇の際に演奏される

ことが多い。

ドビュッシー——フランスの作曲家。従来の西洋音楽の枠組みに囚われない新たな手法で、

独自の表現世界を確立した。

旋法の核音——音楽の旋律を規定する法則において、中核的な役割を果たす音。

ジョン・ケージ——アメリカの音楽家。実験的で前衛的な表現を实践したことで知られる。

〔設問〕

- (一) 片仮名傍線部(1)～(4)について、それぞれ漢字二文字に直して記せ。
 - (1) タイシヤク (2) ミリョウ
 - (3) キト (4) ケイガイ
- (二) 波線部(1)～(4)の漢字について、それぞれその読みを平仮名で記せ。
 - (1) 滑稽 (2) 趨勢 (3) 怯懦 (4) 孵化
- (三) 点線部(あ)～(う)について、それぞれその読みを平仮名で記せ(漢字部分の読みだけを記入すること)。
 - (あ) 赴かせ (い) 暫く (う) 傲え
- (四) 空欄 I に入る言葉として、本文の論旨に照らして、最も適当と思われるものを次からひとつ選び、番号で記せ。
 - (1) 自然と文明との交響 (2) 外界と個との調和
 - (3) 歴史と現在との断絶 (4) 伝統と西洋との融和
 - (5) 自己と他との関係
- (五) 二重波線部(宇宙的な規模の卵) (1箇所) (宇宙的な卵) (2箇所) に関する説明として、本文の論旨に照らして、最も不適当なものを次からひとつ選び、番号で記せ。
 - (1) 旧来の人類の文化を新たな段階へと導く可能性。
 - (2) 多様であり一元化できない人間の想像力の産物。
 - (3) 外的な状況に影響されない確固たる認識の萌芽。
 - (4) 世界の文明文化がもたらした優れた成果の集積。
 - (5) 普遍的な文明文化の実現の可能性をめぐる問い。

(六) 本文の論旨に照らして、最も適当なものを次からひとつ選び、番号で記せ。

(1) ヨーロッパ近代社会を絶対的規範としてきた政治の論理を相対化し、非西洋文化が孕む表現の可能性に注目することこそが、現在の芸術表現に強靱さを付与するための最も重要な条件である。

(2) 歴史とは、単なる事実の連鎖に留まらず、人間がそこに生きた痕跡を後世に伝え、自己存在の意義を考えさせる思考の場なので、音楽においても過去の歴史を安易に否定することはできない。

(3) ドビュッシューは、西洋音楽とは異なる未知の可能性をガムランに見出し、それを自己の表現行為の内部で活用したが、それは結局、新奇な感覚をとり入れただけの皮相的行為に過ぎなかった。

(4) 芸術とは、感覚の閃きと自在な想像力によって生命を吹き込まれる個人的な営為であり、それは科学的分析や論理性のような、旧態依然とした西洋近代の枠組みに囚われるべきものではない。

(5) 伝統的に対立しつつ独自の発展をそれぞれ遂げてきた西洋と東洋の文化の内部では、自らの文化的な主体性をめぐる矛盾がしばしば顕在化して、それが芸術の発展を阻害することにもなった。

(七) 二重傍線部(イ)の〈新しい形〉において否定されるべき音楽のあり方を最も端的に示した箇所を、本文全体の論旨を踏まえて、十字以上十五字以内で本文中から抜き出せ。

(八) 本文中で筆者は、〈音楽〉はどのようなものであるべきだと主張しているのか。本文全体の論旨を踏まえて、その主張を二十字以上四十字以内で総合的に説明せよ。ただし、解答文の中に「伝統」「異質」という二つの語句を必ず用いること(名詞以外の形で用いてもよい)。なお、解答に際しては本文中の語句は用いてよいが、本文からの抜き出しのみ、あるいは本文から抜き出した文章を組み合わせただけの解答は認められない。

2

次の二つの文章を読んで、後の設問に答えよ。

A

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

〔黒田家譜〕「長政記」による

B

この部分に記載されている文章につきましては、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承承願いたします。

〔武内確斎〕「絵本太閤記」による

* (注) 太閤——関白職を後継者に譲った人の称。ここは豊臣秀吉をさす。

大明御陣——文祿・慶長の役。秀吉に派遣された日本軍は朝鮮・明と戦った。

信孝——織田信長の三男。柴田勝家に呼応して挙兵するが秀吉に敗れ、降伏後切腹する。

信雄——織田信長の次男。徳川家康と組んで秀吉と対抗するが和睦。のち秀吉から大名の

地位を追われる。

秀次——豊臣秀吉の甥。一旦は秀吉の後継者として関白の地位に進んだが、のち秀吉より

自害を命ぜられ、一家も三条河原で処刑される。

周公——中国周代の政治家。成王を助け内政を治め天下の平定に寄与した。

〔設問〕

(一) 空欄 **A** **B** に入る漢字一文字の組み合わせのうち、最も適当なものを番号で記せ。

(1) A 義 B 欲

(2) A 正 B 欲

(3) A 正 B 貪

(4) A 義 B 利

(5) A 義 B 貪

(二) 傍線部(1)の根拠を、本文の論旨に照らして、「戦争はーであるから。」という形式で二点記せ。

(三) 傍線部(2)を現代語訳せよ。

(四) 傍線部(3)「小人」と同じ意味でつかわれている漢字一文字の語を、本文Bから抜き出して記せ。

(五) (a) 二重傍線部(ア)ー(エ)「公」の中で一つだけ意味の異なるものはどれか、符号で記せ。

(b) また、その意味として最も適当なものは次のどれか、番号で記せ。

(1) 広く公開すること (2) 平等であること

(3) 私心がないこと (4) 表向き正しいこと

(5) 皆が共有すること

(六) 本文AとBでは、豊臣秀吉の朝鮮出兵の正当性についての評価が百八十度異なっている。AとBでは、その評価はどう異なっているのか。AとBが論拠としている人物をそれぞれ具体的に挙げながら説明せよ。

3

次の文を読んで後の設問に答えよ。(ただし、設問の都合上、返り点・送り仮名を省いたところがある。)

この部分に記載されている文章につきましても、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章につきましても、著作権上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

〔韓非子〕難三による

*〔注〕 秦昭王——秦の昭襄王のこと。

如耳——魏の大夫か。

魏齊——魏の公族。昭王の時の宰相。

孟嘗——齊の公族。田文。孟嘗は号。齊の宰相となるが、失脚し、魏で宰相となる。

芒卯——魏の宰相。如耳・魏齊・孟嘗・芒卯は伝記上では韓との関わりは不明だが、本文で

はこの中に韓と深い関わりを持つ人物がいるものとして論述している。

中期——秦の楽人、弁士。

六晋——晋の六卿（知、范、中行、韓、魏、趙の六氏）が晋の国を分割して統治していた。

知氏——知伯のこと。前述の六卿の中で最も勢力があり、范氏・中行氏を亡ぼした後、趙氏を亡ぼそうとしたが、逆に趙氏・韓氏・魏氏に亡ぼされた。

晋水——川の名。山西省太原県の西南の懸壺山に発し、太原付近を流れている。

三板——板は長さの単位。百五十センチ程度か。

驂乘——御者の右に乗り、左に乗る貴人とのバランスを取り、護衛に務める。そえのり、車

右とも言う。

汾水——山西省寧武県の西南の管涔山に発し、西流して黄河に注ぐ。

安邑——魏の都。山西省夏県。

絳水——川の名。山西省絳県の絳山に発する。

平陽——韓の都。山西省臨汾県。

晋陽——趙の都。山西省太原県。

〔設問〕

(一) 傍線部(1)の「孰与」と同じ用法となるよう、「与」を他の字に置き換えた
い。その漢字を本文中から抜き出せ。

(二) 傍線部(2)を書き下し文にせよ。(助詞、助動詞に当たるもの以外は漢字で
記すこと)

(三) 二重傍線部「知伯」の言葉はどこまでか。最後の漢字一字を記せ。

(四) 傍線部(3)に含まれた意味を、波線部の内容を踏まえて漢字二字の熟語で
示せ。

(五) 空欄に補う語として、本文の論旨に照らして、最も適当なものを次より選
び、番号で答えよ。

(1) 易(あなどる) (2) 慨(なげく)

(3) 欣(よろこぶ) (4) 衛(まもる)

(5) 懊(なやむ)